

子どもたちの真剣な眼差し

2004年1月下旬、写真家の沼田早苗さんと2003ミス・ユニバース®・ジャパンの宮崎京さんが、主にミャンマーからの難民であるカレン族やカレニー族が住むタイのタムビン難民キャンプを訪問しました。お二人に難民キャンプで感じたことをお聞きしました(タイの難民キャンプについては「With you」No. 1もご覧ください。http://japanforumhcr.org/www/withyou.html)

編集部：お忙しいところ、ありがとうございます。難民キャンプは今回の訪問が初めてですか？

沼田：JICA(独立行政法人国際協力機構)の関係で途上国の写真を撮る機会はありませんでしたが、難民キャンプを訪問するのは初めてです。

宮崎：私はキャンプ訪問はもちろん、難民の方にお会いするのも初めてでした。

編集部：日本に住んでいるとなかなか「難民」という言葉がピンとこないかもしれませんが、今回訪問して何かご自分の中で変わりましたか？

宮崎：実は今回の訪問までタイに難民がいることも知らなかったんです。確かに一般の人々にはわかりにくいかもしれませんが、「難民」って漢字で書くど「難しい人」みたいなイメージになってしまっています。

沼田：写真家のセバスチャン・サルガド氏の写真もよく見ますが、タイの難民キャンプは最悪の状態ではないかもしれませんが、でも7年も難民生活を強いられているわけですよね。私だったらもっと落ち込んでしまうでしょうね。

宮崎：自分が難民になることを想像するのも難しいですね。私は日本で何不自由なく生活していますし、パスポートひとつで日本と外国を自由に出入りできますけど、難民の人たちはこのキャンプから出られないし、いつ故郷へ帰れるかもわからないのですから。

沼田：帰国後のことを考えてでしょうか、非常に教育熱心ですね。子どもたちは悪い環境のなかで、一生懸命勉強してましたよ。それがかえってけなげに感じられました。



宮崎 京さん(右)

宮崎：日本の子どもたちは当然のように学校に行けるから幸せですね。キャンプの学校で「化学を勉強すると日本ではどのように役に立つのか？」ときかれて答えに困りました。熱心に勉強しているのがよく伝わってきました。だからこそもっと勉強できる環境を整えてあげたいですね。

沼田：キャンプでは女性のほうが大変そうでした。タムビンでは9000人のうち約半分は子どもでしょう。ご飯も食べさせないといけないし。逆に男性はひまそうでした。キャンプ内では労働が許可されていないから、責めることはできないけど。カメラを向けるとちょっと気まずそうでした。何年も働いていないので、自信をなくしつつあるのかもしれませんが。

宮崎：職業訓練のプログラムがあって、料理とか裁縫など、皆さん意欲的に参加していました。でも、国に帰れたとしても、土日休んで月曜日からまた働くというような規則正しい生活に戻るのも大変でしょうね。

沼田：いつ帰れるかわからないのはつらいでしょうね。

宮崎：娯楽もないですし。でも、「タナカ」というお化粧みたいな粉を顔に塗っていました。苦しい生活のなかでも、彼女たちなりのお洒落なのかもしれません。

沼田：人数も男性より女性のほうがかなり多かったですね。

編集部：キャンプでは女性や子どもが目立ったようですが、実際、難民の8割は女性と子どもと言われています。沼田さん、宮崎さん、それぞれの立場で今後、難民の人々を応援していただきたいと思いますが、何か抱負のようなものは？



宮崎：今回初めて難民の人とお会いして難民問題がもっと身近に感じられるようになりました。私は雑誌の取材やイベントなどのお仕事が多いのですが、世界にはたくさん難民の人々がいるということを皆さんにお話できれば、そしてそれが何か考える糸口になればと思います。

沼田：ファインダーから見る子どもたちの笑顔も素敵でしたが、それよりも子どもたちの興味深そうな表情、真剣な眼差しがもっと印象的でした。最近は活字離れとよく言われますが、写真の訴える力は強いと思います。写真を通して難民問題をアピールできればいいですね。

編集部：今年の「世界難民の日」写真展(2ページ参照)に沼田さんの写真も展示させていただくことになっています。今後ともお二人にはさまざまな形で難民支援にご協力いただければと思っています。どうもありがとうございました。(写真/沼田早苗)

沼田早苗(ぬまたさなえ)：神奈川県生まれ、大竹省二氏に師事、1978年よりフリーランス、雑誌やテレビの取材等を経て、人物写真を中心に活躍。

宮崎 京(みやざきみやこ)：熊本県生まれ、2003ミス・ユニバース®・ジャパン、パナマにおける世界大会で5位入賞。エイズ撲滅や難民支援活動にも参加。

認定NPO法人 日本国連HCR協会

[国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)日本委員会]

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70

UNハウス(国連大学ビル)6階 UNHCR内

TEL: 03-3499-2450 FAX: 03-3499-2273

Eメール: info@japanforumhcr.org

ホームページ: http://www.japanforumhcr.org

「With you」No.2 2004年 第2号(5月)

発行人: 赤野間征盛

編集: 山本浩、中村恵、井上清治、奥平章子

デザイン・製作: 欄ポイントライン

「With you」副題公募継続のお知らせ 前号でお知らせしました「With you」副題公募にいくつかの案をお寄せいただき、ありがとうございました。どれも甲乙つけがたく、編集部で票が割れてしまいました。そこで公募を継続することになりました。「With you」の持つ意味、UNHCRやHCR協会の活動内容などを考慮して引き続き皆様にご検討いただければ幸いです。